

聖洗式

洗礼式はなるべく主日またはその他の祝日の公禱のときに行なう。幼な子は出生の後なるべく早く早く聖堂につれて来て、洗礼を受けさせなければならぬ。幼な子の洗礼には、おのおの教父母三人を立てる。男の子には教父二人、教母一人、女の子には教父一人、教母二人とする。壮年が洗礼を受けるときは、司祭は本人がキリスト教の要理を充分理解したかどうかを試問し、またこれに祈りと断食をもつて、この聖奠を受けることを勧める。壮年の洗礼には少なくとも二人の教父母を立てる。

聖洗盤には清水を満たす。

司祭は次のように言う。洗礼を受ける者が幼な子である時は、

「――内の語を用い、壮年であるときは、――」内の語を省く。両者はともに洗礼を受けるときは、その間に、必要に応じて「及び」を入れて用いる。

この人「幼な子」はすでに洗礼を受けしや否や

まだ受けていないときは、教父母は「いまだ受けず」とこたえ、明らかでないときは「明らかならず」と言う。

次に司祭は言う。

勧告

愛する兄弟よ、我らの救い主キリストの教えたまいしごとく、人は水と霊とによりて新たに生まれざれば神の国に入ることあたわず。ゆえになんじら父なる神に祈り、この人々をあわれみ、その生まれつかぬものを与え、水と聖霊との洗礼を授け、キリストの聖公会に入れ、その生きてる肢となしたまわんことを、ひたすら願うべし

特禱

ここで司祭は次の祈りをする。

とこしえにいます全能の神よ、大いなるあわれみによりて、このしもべを顧み、聖霊をもってこれを洗い、これを清め、これをして主の怒りをまぬかれ、キリストの公会なる箱船に入らしめたまえ。願わくは信仰を堅くし、望みをいただき、愛を深くして、この世の荒波を越え、ついに限りなき命の岸に至りて、世々主と

もに、みくらに座ずることを得させたまえ。主イエスⅡキリストによりてこいねがい奉る。アーメン

聖言

司祭 主なんじらとともにいますことを
会衆 主なんじの霊とともにいますことを
司祭 聖マタイの福音書第二十八章十八節以下の言葉をきくべし
会衆 主に栄光あらんことを

イエス進みきたり彼らに語りて言いたもう、「我は天にても地にても、すべての権を与えられたり。さればなんじら行きて、もろもろの国びとを弟子となし、父と子と聖霊の名によりてバプテスマを施し、わがなんじらに命ぜしすべての事を守るべきを教えよ。見よ、我は世の終わりまで常になんじらとともにあるなり」。
会衆 主に感謝奉る

感謝

次に同左の感謝を唱える。

天の父・全能の神よ、我らを召して主の恵みを知る知識をさづけ、主を信ずる信仰を与えたまえることを慎みて感謝し奉る。願わくはこの知識をますます加え、この信仰をいよいよ堅くしたまえ。また願わくはこの人々に聖霊を与えて、新たに生まれ限りなき救いの世継ぎとなることを得させたまえ。父と聖霊とともに世々統べ治めたもう主イエスⅡキリストによりて聞こし召したまわんことをこいねがい奉る。アーメン

誓約

次に司祭は洗礼を受ける者に言う。洗礼を受ける者が幼な子のときは教父母に言う。

洗礼を受けんとて、ここにきたれる兄弟「洗礼を受けさせんとて、この幼な子を連れきたれる兄弟」よ、いま聞きしごとく、会衆はなんじら「幼な子」のために祈りをささげ、主イエスⅡキリストなんじら「幼な子」を受け、なんじら「幼な子」の罪をゆるし、天の国と限りなき命を与えたまわんことを願えり。キリストは福音のうちに、この願いを許すことを約したまえり。ゆえになんじらも「教父母なるなんじらも幼な子の成長して自らこれを約束しうるまでかわりて」約束せざるべからず。されば我なんじらに問わん

ここで司祭は次のように問い、洗礼をうけるものはおのおの答える。幼な子と
きは教父母が変わって答える。

問 なんじ悪魔とそのわざを捨て、この世の虚栄・貪欲を離れ、肉の悪欲を去
り、これらのものに惑わざること努むるか

答 我ごとごとくこれを捨て、神の助けによりて惑わざること努む

問 なんじ天地の造り主・全能の父なる神を信ずるか

なんじ又、そのひとり子・我らの主イエス・キリストを信ずるか。主は聖
霊によりてやどり、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトの時苦し
みを受け、十字架につけられ、死にて葬られ、よみにくだり、三日目に死
にし者のうちよりよみがえり、天に昇り、全能の父なる神の右に座したま
えり。かしこよりきたりて生ける人と死ねる人をさばきたまわん。なんじ
これを信ずるか。なんじマタ、聖霊を信ずるか。また聖公会、聖徒の交わ
り、罪の赦し、からだのよみがえり、かぎりなき命を信ずるか

答 我すべてこれを堅く信ず

問 なんじこの信仰をもって洗礼を受くることを願う

答 我これを願う

問 されば、なんじ生涯、神の御心に従い、その戒めを守ることが努むるか
答 われ神の助けによりてこれを努む

水の聖別

次に司祭は聖洗盤の水を聖別する。

司祭 主なんじらとともにいますことを

会衆 主なんじの霊とともにいますことを

司祭 なんじら心を挙げよ

会衆 我ら心を主に挙げん

司祭 主なる神に感謝し奉るべし

会衆 そは正当にしてなすべきことなり

至聖なる父・とこしえにいます全能の神よ、いついずこにても主に感謝し奉るは、
正当にしてなすべき務めなり。ことに主の愛子イエス・キリストは我らの罪を赦
さんがために、尊き御わきより水と血とを流し、又その弟子に命じ、なんじら行
きて万国の民を弟子となし、父と子と聖霊の名によりてバプテスマを施せと仰せ
たまひしことを感謝し奉る。願わくはこの会衆の祈りを聞き召し、聖霊により
てじよの水を聖別して罪を洗うしとなし、この水にて洗礼を受くる者に主の
恵みを豊かにくだし、常に主の子供のうちにおらしめたまえ。御子イエス・キリ
ストによりてこいねがい奉る。願わくは御子と聖霊とともに栄光世々限りなく全
能の父にあらんことを。アーメン

祈祷

あわれみ深き神よ、願わくはこの人々の古きアダムに葬り、新しき人をよみがえらせたまえ。アーメン

願わくは肉の悪欲は死に、霊に属するものは生きて、ますます盛んならしめたまえ。アーメン

願わくは悪魔と世と肉に勝つ力を与えたまえ。アーメン

世々統べ治めたもう神・あわれみ深き主よ、願わくはわが務めによりて主にささぐるものを受け、天のもろもろの徳をあたえ、限りなき幸いをもって報いたまえ。アーメン

授洗

次に司祭は洗礼を受ける者を聖洗盤に近づかせ、教父母に言う。

この人（幼な子）に名をつけよ

教父母の一人、名を告げる。次に司祭は本人を水に入れるか、または頭に水を注ぎながら、その名を呼んで、左のように言う。

次の二つの「アーメン」は司式者だけが言う。

——（教名） 父と子と聖霊の御名によりて、我なんじに洗礼を施す アーメン

司祭はまた言う。

我この人（幼な子）をキリストの群れに受け、その額に十字架の形をしるす（ここで頭に十字架の形をしるす）このしるしは、キリストの十字架を恥とせず、生涯キリストのしもべとなり、また忠義なる兵卒となり、その旗もとにありて、勇ましく罪と世と悪魔とに向かい戦うことを表わすものなり アーメン

感謝

司祭は言う。

兄弟よ、この人々「幼な子」馳すでに新たに生まれ、キリストの公会につがれた。ゆえに全能の神にこの恵みを謝し、また心を合わせてこの人々「幼な子」のために祈り、生涯今日のごとく過ごさせたまわんことを願うべし

次に一同、主の祈りを唱える。

天にします我らの父よ、願わくは御名を聖となさしめたまえ。御国をきたらしめたまえ。御心を天におけるごとく、地にも行わしめたまえ。我らの日用の糧を今日も与えたまえ。我らに罪を犯すものを我ら赦すごとく、我らの罪をも赦したまえ。我らを試みにあわせず、悪より救いいだしたまえ。国も力も栄えも世々に父のものなればなり アーメン

司祭は言う。

いとあわれみ深き父よ、聖霊によりてこの人々「幼な子」を新たに生まれしめ、これを子となし、聖公会の肢とならしめたまいしことを感謝し奉る。願わくはこの人々「幼な子」罪に死に、義に生き、キリストの死と葬りにあずかり、古き人を十字架につけて、ことごとく罪を滅ぼすことを得させたまえ。また御子の死にあずかるごとく、そのよみがえりにもあずからしめ、ついに聖公会の人々とともに、限りなき御国を継がしめたまえ。主イエスキリストによりてこいねがい奉る。アーメン

勧告

受洗者が幼な子であるときは、司祭は次の勧めをする。

教父母に告ぐ

なんじらこの幼な子にかわりて、悪魔とそのわざを捨て、神を信じ、神に仕うることを約束せり。ゆえに幼な子の道理をわきもうる年ごろに至らば、このおごりかなら約束をこれに教うるは、なんじらの義務なり。されば幼な子に聖書の教えをきかせ、ことに使徒信経・主の祈り・十戒を学ばせ、その他、魂を養うに必要なるものを教え、良くこれを育て、キリストの道にかのう正しき行ないを習わすべし。そもそも洗礼は救い主キリストの模範に従い、これに似るべきことを示すものなり。さればキリスト我らのために死にて、よみがえりたまひしごとく、洗礼を受けたる者も罪に死に、義によみがえり、常に悪欲を滅ぼし、日々ますます徳に進み、神に忠誠を尽くすべし

司祭はまた言う。

この幼な子、使徒信経・主の祈り・十戒をおぼえ、また公会問答を学びたるうえ、主教に願いて堅信式を受けしむべし

受洗者が壮年であるときは、司祭は次の勧めをする。

いま洗礼によりてキリストに着たる兄弟に勧む

なんじらはキリストを信ずるによりて、神の子また光の子となりたれば、慎みてその信仰するところにそむかず、常に光の子のごとく歩むべし。そもそも洗礼は救い主キリストの模範に従い、これに似るべきことを示すものなり。さればキリスト我らのために死にて、よみがえりたまひしごとく、洗礼を受けたる者も罪に死に、義によみがえり、常に悪欲を滅ぼし、日々ますます徳に進み、神に忠誠を尽くすべし

洗礼を受けた壮年は、遠からず主教から堅信式を受けて聖餐にあずからなければならぬ。

条件洗礼式語

洗礼を受けたことの明らかでないものに聖洗式を行なうときは、授洗の式語として次の語を用いる。「アーメン」は司式者だけが言う。

なんじ、もし洗礼を受けざりしならば、――（教名）父と子と聖霊の御名によりて、我なんじに洗礼を施す アーメン

緊急洗礼

やむをえない時は、聖洗式を私宅または病室で行なう。

緊急の場合には司祭は臨席者とともに主の祈りを唱え、洗礼を受ける者の頭に水を注ぎながら次のように言う。司祭に支障のあるときは他の聖職またはだれでもこれを行なうてよい。

「アーメン」は司式者だけが言う。

――（教名）父と子と聖霊の御名によりて、我なんじに洗礼を施す アーメン

次に左の感謝をささげる。

いとあわれみ深き父よ、聖霊によりてこの人「幼な子」を新たに生まれしめ、これを子となし、聖公会の肢とならしめたまいしことを感謝し奉る。願わくはこの人々「幼な子」罪に死に、義に生き、キリストの死と葬りにあずかり、古き人を十字架につけて、ことごとく罪を滅ぼすことを得させたまえ。また御子の死にあ

ずかるごとく、そのよみがえりにもあずからしめ、ついに聖公会の人々とともに、限りなき御国を継がしめたまえ。主イエスキリストによりてこいねがい奉る。
アーメン

この受洗者が緊急状態を脱した場合は、本人を聖堂に連れて来て次の式を行なう。

その時には教父母を要する。その教会の司祭が自ら洗礼を行なったときは、次のように言って聖言に移る。

我――（年月日・場所）において、証人の前にて聖公会の式に従い、この人（幼な子）に洗礼を施せり

もし司祭が自らその式を行なわなかったときは、正当にこれを行なったか否かを尋ねる。司祭はまず次のように問う。

この人（幼な子）はたれに洗礼をうけしか

答――

この人（幼な子）の名は何と言うか

答――

その時の証人はたれなりしか

答――

この人（幼な子）は、水にて洗礼を施されしか

水で洗礼を施されたときは次のように言う。

答 しかり

この人（幼な子）は、父と子と聖霊の御名によりて洗礼を施されしか

答 しかり

この語を用いて洗礼を施されたときは次のように言う。

正当に洗礼を受けたことが明らかならば、司祭は次のように言う。
明かでないときは条件洗礼を施す。

我いま会衆に告ぐ、――はすでに正当に洗礼を受けたりと認む

聖言

司祭 主なんじらとともにいますことを

会衆 主なんじの霊とともにいますことを

司祭 聖マタイの福音書第二十八章十八節以下の言葉をきくべし
会衆 主に栄光あらんことを

イエス進みきたり彼らに語りて言いたもう、「我は天にても地にても、すべての権を与えられたり。さればなんじら行きて、もろもろの国びとを弟子となし、父と子と聖霊の名によりてバプテスマを施し、わがなんじらに命ぜしすべての事を守るべきを教えよ。見よ、我は世の終わりまで常になんじらとともにあるなり」。

会衆 主に感謝奉る

誓約

次に司祭は洗礼を受けた者、または教父母に言う。

なんじ神とこの会衆の前にて（幼な子にかわりて）約束すべし

問 なんじ悪魔とそのわざを捨て、この世の虚栄・貪欲を離れ、肉の悪欲を去り、これらのものに惑わざること努むるか
答 我ことごとくこれを捨て、神の助けによりて惑わざること努む

問 なんじ天地の造り主・全能の父なる神を信ずるか
なんじ又、そのひとり子・我らの主イエスキリストを信ずるか。主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生まれ、ポンテオピラトの時苦しみを受け、十字架につけられ、死にて葬られ、よみにくだり、三日目に死にし者のうちよりよみがえり、天に昇り、全能の父なる神の右に座したまえり。かしこよりきたりて生ける人と死ねる人をさばきたまわん。なんじこれを信ずるか。なんじマタ、聖霊を信ずるか。また聖公会、聖徒の交わり、罪の赦し、からだのよみがえり、かぎりなき命を信ずるか
答 我すべてこれを堅く信ず
問 なんじこの信仰をもつて洗礼を受くることを願う
答 我これを願う
問 されば、なんじ生涯、神の御心に従い、その戒めを守ることを努むるか
答 われ神の助けによりてこれを努む

次に司祭は言う。「アーメン」は司祭だけが言う。

我この人（幼な子）をキリストの群れに受け、その額に十字架の形をしるす（ここで頭に十字架の形をしるす）このしるしは、キリストの十字架を恥とせず、生涯キリストのしもべとなり、また忠義なる兵卒となり、その旗もとにありて、勇ましく罪と世と悪魔とに向かい戦うことを表わすものなり アーメン

司祭は次の感謝を唱える。

いとあわれみ深き父よ、聖霊によりてこの人々「幼な子」を新たに生まれしめ、これを子となし、聖公会の肢とならしめたまいしことを感謝し奉る。願わくはこの人々「幼な子」罪に死に、義に生き、キリストの死と葬りにあずかり、古き人を十字架につけて、ことごとく罪を滅ぼすことを得させたまえ。また御子の死にあずかるごとく、そのよみがえりにもあずからしめ、ついに聖公会の人々とともに、限りなき御国を継がしめたまえ。主イエス^{II}キリストによりてこいねがい奉る。アーメン

受洗者か幼な子であるときは、司祭は次の勧めをする。

教父母に告ぐ

なんじらこの幼な子にかわりて、悪魔とそのわざを捨て、神を信じ、神に仕うることを約束せり。ゆえに幼な子の道理をわきもうる年ごろに至らば、このおごりかなら約束をこれに教うるは、なんじらの義務なり。されば幼な子に聖書の教えをきかせ、ことに使徒信経・主の祈り・十戒を学ばせ、その他、魂を養うに必要なるものを教え、良くこれを育て、キリストの道にかのう正しき行ないを習わすべし。そもそも洗礼は救い主キリストの模範に従い、これに似るべきことを示すものなり。さればキリスト我らのために死にて、よみがえりたまひしごとく、洗礼を受けたる者も罪に死に、義によみがえり、常に悪欲を滅ぼし、日々ますます徳に進み、神に忠誠を尽くすべし

受洗者が壮年であるときは、司祭は次の勧めをする。

なんじはキリストを信ずるによりて、神の子また光の子となりたれば、慎みてその信仰するところにそむかず、常に光の子のごとく歩むべし。そもそも洗礼は救い主キリストの模範に従い、これに似るべきことを示すものなり。さればキリスト我らのために死にて、よみがえりたまひしごとく、洗礼を受けたる者も罪に死に、義によみがえり、常に悪欲を滅ぼし、日々ますます徳に進み、神に忠誠を尽くすべし